

1. はじめに

米国でも、12月に入り、オミクロン株コロナウイルスの感染者が出始め、COVID-19が最初に確認されて2年を経過し、新たな段階に入ってきた。今後、100年前のスペイン風邪の当時と同じく2年半で終息に向かうのか、致死率の高い株へと変異をしていくのかは予断を許さない状況である。米国では、飛行機の中ではマスクをしているものの一般の活動ではほとんどマスクをしない。マスクを普通に受け入れる日本人との違いが、ここ最近の感染数の差に表れてきたのであれば、ワクチン至上主義の欧米と、ワクチン+マスク着用+手洗いの日本型対策との差を今後注目したい。

COVID-19により、多くの海外展示会がキャンセル、延期やバーチャル開催されてきたが、リアル展示会が少しずつ復活してきている。ここでは2021年8月に開催された米国パウダーショーについて報告するとともに、2022年に開催される、粉体に関連する海外展示会も紹介する。

2. 米国 iPBS-Powder & Bulk Solids 2021

北米最大の粉体技術の展示・技術発表会 international Powder & Bulk Solids (iPBS) が2021年に開催された。このiPBSは、米国シカゴの空港に近いイリノイ州 Rosemont で、もともと2020年4月に予定されていたが、二度延期され、昨年8月24～26日(3日間)リアル展示会が開催された。

古くから米国パウダーショーとも呼ばれ、粉体工業と医薬・包装・化学・食品製造技術の4展示会との共催で、Informa Markets が主催する。2022年に製造系展示会で以下の粉体併設はあるが、特化した展示会は開催されない。

Powder & Bulk Solids South (NC州、6月14～16日)

Powder & Bulk Solids Montreal (カナダ、11月9～10日)

今回、iPBS 展への現地法人を含めた日本企業の出展は当社を含め全部で12社で、COVID-19の影響のため、中国を含む海外からの出展が激減した(表-1)。今回、当社にて、日本企業6社の直接出展の支援を行ったが、前回同様、共通アイランドブース(合計6コマ、写真-1)で出展した。メインホールの広い場所で個別の機械や技術を見せることにより集客効果を高めつつも、同時に簡素な装飾で出展コストを下げながら、米国人日本語通訳を採用して、米国人が入りやすい展示ブースを目指した。

表-1 2016年からの出展企業推移

	日本からの 出展企業数	日本以外 出展企業数	合計	日本からの 直接出展社数
2016年	18	405	423	8
2018年	20	440	460	10
2021年	12	309	321	6

(12社の企業名) (株)アコー、(株)NBC メッシュテック、筒井理化学器械(株)、アサダメッシュ(株)、日清エンジニアリング(株)、トリプルエーマシン(株) (以上共同ブース、日本から直接出展)、AAAmachine (Des Plaines, IL)、Hosokawa Micron (Summit, NJ)、Kuriyama of America (Schaumburg, IL)、SMC Corp. (Noblesville, IN)、Teijin Frontier、Nikon Metrology。APPIE は、国際粉体工業展東京を紹介するブースを出展した。



写真-1 日本企業共同ブース

3. ドイツ、ACHEMA 2022と POWTECH 2022

3年に一度、フランクフルトで開催される、ヨーロッパ最大の化学技術(粉体技術を含む)の国際展示会ACHEMAが、もともと2021年6月予定だったが、2022年4月4～8日に延期・開催される。このため、その合間に、一年半ごとに開催される、粉体技術の技術発表・国際展示会POWTECH(ドイツ、ニュルンベルク)は2022年春に予定されていたが、2022年8月30日～9月1日に開催される予定。

ACHEMA 2018

実績 144,000人(来場者)、3,737社(出展社)

POWTECH 2019

実績 14,131人(来場者)、823社(出展社)

4. 中国、PM China 2022と IPB 2022

今年で15回目となるPM China 2022 (Shanghai International Powder Metallurgy Exhibition & Conference) は、中国における粉体技術の技術発表・国際展示会で、今年は、5月23～25日、上海でリアル開催される(主催者: Shanghai Exhibition Service)。

中国では、もう一つ歴史のある粉体技術の展示会IPB 2022(今回20回目)が、7月27～29日、上海で開催される(主催者: Nurnberg Messe)。

5. その他2022年に注目する展示会

Ceramics Expo 2022 (7th)

セラミックス関連の設備技術展示会(主催者: Smarter Shows)で、8月29～31日、クリーブランドで開催予定。

Interphex NY 2022

昨年中止となったが、医薬系技術展示会Interphexは、5月24～26日に米国ニューヨークで開催される予定。

Propak Asia 2022

今年で29回目を迎えるこの展示会は、毎年タイのバンコクで開催される。世界から食品機械、包装機が展示され、食品関連機械をアジア向けに紹介する展示会として評判がよい。2021年から延期され、6月15～18日にリアルで開催予定(主催者: Bangkok Exhibition Services)。

2019年実績 52,256人(来場者)、2089社(出展社)

2020年実績 20,546人(来場者)、554社(出展社)

6. おわりに

COVID-19によりバーチャル展示会が増えたが、やはりリアル展示会に行きたいというニーズの高まりから、2022年はリアル展示会が増えることが予想される。世界で販売していくには、リアルとバーチャル両方の展示会への対応や準備を始めておきたい。